

### 13. 「子どもに何もしてあげることがないなら抱きしめよう」

2007年5月1日 社会福祉法人 江刺保育園

「子どもと一緒にいても何をして遊べばいいのかわからないのです。」ということをよく聞くのですが、そんなときは「お父さん、お母さんは、君の事を大好きだよ。」という思いを込めて抱きしめてあげるのであります。たとえば、幼稚園や保育園の送り迎えのとき、子どもが何か上手に出来たとき、ご飯を全部食べることが出来たとき、子どもと同じ気持ちになることが出来たとき、悲しいとき、嬉しいとき、どんなときでも自然に子どもを抱きしめてあげて欲しいと思います。抱きしめてあげることとは、どんなことよりも、子どもたちは、喜び、安心することでしょう。小学校に入る前の小さな子どもたちが心から望んでいることは、お母さん、お父さんと、いつも一緒にいたいと思っています。そして、自分にとって一番大切な人は、お母さん、お父さん、なのです。ですから、大好きな、お母さん、お父さんから、抱きしめられることほど、嬉しいことはないのです。何か特別に、楽しいことをしなければならぬ、とか、楽しいところに遊びに行かなければならぬと考えてしまいますが、確かに、子どもたちは、とても喜びますが、そのようなことを、何回もするよりは、子どもと一緒にいて、たくさん抱きしめてあげることが、増やして欲しいと思います。そのような生活をしていると、さらに楽しみや喜びが大きく膨らんでくることでしょう。

どちらかと言うなら、子どもを、**甘えん坊に育てて欲しいと思います。**子どもたちの気持ちを、しっかりと受け止め、今、子どもが何を望んでいるのかを確認し、それを出来るだけ、満たしてあげるように、育ててあげれば良いと思います。将来のために、子どもを厳しくするのはなく、今現在を、子どもが喜び、楽しく、過ごすことができるようにしてあげることが大切だと思います。子どもが自立するためには、自分をどんなことがあっても支えてくれる、そして、愛してくれるお母さん、お父さんが、絶対に必要なのです。そのことを、しっかりと子どもに伝えることが、幼児期の子育てなのだと思います。子どもを自立させたいと思うなら、厳しく躾けるより、子どもをしっかりと抱きしめながら、子どもの気持ちを受け入れながら、それを満たしてあげることができると、子どもたちは、しっかりと自立するのです。



#### 《かぼちゃパイ》（10個分）

##### 材料

- かぼちゃ
- 生クリーム
- ぎょうざの皮
- 揚げ油

##### 作り方

1. かぼちゃを適当な切り、ゆでる。茹で上がったら水気をきり、つぶす。
2. つぶしたかぼちゃに生クリームを入れる。
3. ぎょうざの皮に包んで油で揚げる。

残り物のかぼちゃ煮で、手軽にできるおやつです。カリッとして、美味しくできます。

